

公益財団法人 あいち男女共同参画財団

男女共同参画のキホン ー防災編ー

近年、豪雨や地震など、甚大な被害をもたらす災害が各地で発生しています。すぐそこにある「もしも」に対応するために必要な男女共同参画の視点について考えます。



阪神・淡路大震災




令和2年7月豪雨

写真提供：（一財）消防防災科学センター「災害写真データベース」

もしあなたが被災女性だったら…

こういう場所で安心して過ごせますか？

- ◆ プライバシーを守る間仕切りがない。夜、安心して眠れない。
- ◆ 物資担当が男性なので、生理用品などが受け取りづらい。
- ◆ 下着の配布があっても、サイズが少なく、自分の体形に合うものがない。
- ◆ 仮設トイレが男女別になっていない。居室から離れていて、照明もなく、夜は真っ暗。



参考：内閣府男女共同参画局「男女共同参画の視点による震災対応状況調査」(124.7)

避難所で女性が望むことって？

男性が見落としがちでニーズもあります。

- ◆ 安心して授乳や着替えをしたい。下着などの洗濯物を干すための場所がほしい。
- ◆ 生理以外にも、おりものや尿漏れを吸収するシートが必要。
- ◆ 年齢に関わらず、薄着の季節は胸のラインを隠すためにブラジャーがほしい。
- ◆ 暗い・人目がないところは性犯罪が怖い。



参考：内閣府男女共同参画局「災害対応力を強化する女性の視点」実践的学習プログラム」(23.5)

あの時、伝えられなかった「声」


これまでの災害では、女性特有のニーズがあっても、**避難所の運営は男性中心で、責任者も男性**であることが多かったため、「要望や意見を言うと、肩身が狭くなるのでは…」との不安から、女性は言い出すことが難しい現実がありました。



参考：内閣府男女共同参画局「男女共同参画の視点による震災対応状況調査」(124.7) 写真提供：（一財）消防防災科学センター「災害写真データベース」

女性が抱える困難を減らすには？

平常時から防災会議などの「意思決定の場」に女性が参加して、意見を出すことが大切です。男女共同参画の視点を入れることで、さまざまなニーズに対応できます。




出典：内閣府男女共同参画局「災害対応力を強化する女性の視点」実践的学習プログラム」(23.5)

意思決定の場に女性はまだ少ない

意思決定の重要な場である「防災会議」の委員や、地域の防災に深く関わっている消防団に占める女性の割合は、とても少ないのが現状です。特に市町村では、**防災会議に女性委員が全くいない**ところもあります。

女性の割合

| 都道府県防災会議 | 市町村防災会議 |
|----------|---------|
| 19.2% | 10.3% |
| 消防団 | |
| 3.5% | |

出典：内閣府男女共同参画局「女性の政策・方針決定への参画状況の現状(継続版)」(25.6)

女性の力を防災で役立てるには

防災の備えや知識は、誰にとっても必要です。それぞれの立場で、**まずはできることから**やってみませんか？

The infographic features a central illustration of a family (a man, a woman, and a child) sitting together. Surrounding this are five circular callouts with icons and text:

- 防災の意見募集やアンケートに答える (Respond to disaster opinion surveys and questionnaires)
- 自治会や町内会で意見を言う (Express opinions at neighborhood associations or town meetings)
- 自治体の防災研修に参加する (Participate in municipal disaster training)
- 防災地支援ボランティアに参加する (Participate in disaster area support volunteer activities)
- 地域の防災計画や避難所マップを確認する (Check local disaster plans and evacuation maps)
- 地域の防災イベントに参加する (Participate in local disaster events)

参考：内閣府男女共同参画局「女性の力を発揮するこれからの地域防災」(R4.3)

6 公益財団法人 あいち男女共同参画センター

気づいた“今”から行動を！

女性と男性がともに防災・復興に参画し、協力することで、災害に強い社会がつけられます。

あなたのまちの防災計画では、備蓄品や避難所運営はどうなっていますか？
「こうしたらいいのに」と思うようなことが、あるかもしれません。
気づいたことがあったら、行動を起こしましょう。

The illustration shows a family of three (a man, a woman, and a child) sitting on the floor, surrounded by disaster supplies like a backpack, a first aid kit, and a flashlight. They appear to be in a room, possibly a shelter or a home, preparing for an emergency.

出典：内閣府男女共同参画局「災害対応力を強化する女性の視点」実践的学習プログラム (R3.5)

7 公益財団法人 あいち男女共同参画センター